

年 月 日

日付は申請受付日ですので、事前相談の段階では空欄としてください。

一般社団法人 20年先を見据えた日本の高断熱住宅研究会  
理事長 坂本 雄三 殿

### HEAT20 住宅水準 「住宅システム認証」 申請書

申請者 会社名 **株式会社 OO工務店**  
代表取締役、氏名 **代表取締役 OO OO**  
住所 **東京都千代田区神田O-O**

HEAT20 会員情報	会員区分	<input checked="" type="radio"/> 会員	<input type="radio"/> 非会員
	会員種別	<b>B-3</b>	会員名: <b>株式会社OO工務店</b>

標記の認証を受けたいので、関係書類を添えて申請いたします。  
この申請書及び付属資料の記載事項は、事実と相違ありません。

#### 記

該当箇所の○にチェック ●を入れて下さい。

システムの全体像を示すための**短計図、断熱部位の断面構成がわかる図面（平断面、縦断面）を必ず添付**してください。

暖冷房・換気システム等については、**補足資料として適宜添付**してください。

「**計算地点選定リスト**」による検討結果を添付してください。

ルート1は、「**外皮性能地域補正ツール**」の計算結果を転記するとともに計算結果の出力も提出してください。

ルート2は、ホームズ君 省エネ診断エキスパートの「**HEAT20 住宅シナリオ計算書**」の計算結果を転記するとともに「**HEAT20 住宅シナリオ計算書**」も提出してください。  
※AE-Sim/Heat による場合は、事務局までお問い合わせください。

1 住宅システムの名称	<b>OO工務店 プレミアム断熱住宅システム</b>			
2 住宅システムの概要と特徴	1) 外皮の熱性能 G3水準の高断熱住宅である。断熱材は・・・が主要材料なので、気密性・防露性にも優れている。窓は3層ガラス・・・サッシを使用する。日射遮蔽は底とルーバーで行う。通風にも配慮して、開口部と廊下の位置を定めている。 2) 暖冷房・換気設備の特徴 暖冷房は家庭用エアコンを熱源とする全館空調システム（・・・システム）である。全熱交換換気と空気清浄機もシステムに内包されているので、省エネで且つ健康的である。			
3 認証を申請する地域 <small>（省エネ基準の地域区分、県名、市区町村名を適宜使用して、もれがないように申請する）</small>	<b>東京都、神奈川県川崎市、神奈川県横浜市の6・7・8地域</b>			
4 構造の種類	<input checked="" type="radio"/> 木造軸組工法 <input type="radio"/> 枠組壁工法 <input type="radio"/> その他（ ）			
5 断熱工法	・断熱部位の組合せ（壁以外） <input checked="" type="radio"/> 屋根-1床 <input type="radio"/> 天井-1床 <input type="radio"/> 屋根-基礎 <input type="radio"/> 天井-基礎 ・断熱パネル採用の有無 <input checked="" type="radio"/> 採用している <input type="radio"/> 採用していない			
6 認証を申請する水準 <small>（住宅シナリオ）</small>	<input type="radio"/> G1 <input type="radio"/> G2 <input checked="" type="radio"/> G3			
7 評価計算の方法と指標の計算結果	使用したルート		<input checked="" type="radio"/> ルート1 <input type="radio"/> ルート2（G1の認証には使えない）	
	気象データ	地点NO.	地点名	
	住宅シナリオ	暖房期最低室温（0T）	住宅シナリオ・NEB	<b>概ね15℃を下回らない</b>
			最低0Tの計算値	<b>13.2℃</b>
		暖房負荷削減率	住宅シナリオ・EB	<b>約40%削減</b>
			平成28年基準暖房負荷 <sup>*1</sup> （ルート2）	<b>10520 MJ/年</b>
	申請住宅システムの暖房負荷 <sup>*2</sup>	<b>4210 MJ/年</b>		
	暖房負荷削減率の計算値	<b>60.0 %</b>		
<small>暖房モードについて：※1では該当地域に応じた暖房モードが設定されている。※2では、ルート1の場合は※1と同じモードだが、ルート2ではどの地域でも全館連続暖房モードが設定されている。</small>				

外壁・屋根・天井・床の熱貫流率計算において木部等の熱橋面積比率を特定するために必要です。必ず記載してください。

気象データのない市町村を申請地域とする際には、資料「申請地域と評価に用いる気象データ地点の選び方」に基づいて検討してください。

注：気象データ地点を申請する地域としたり、対象外とすることはできません。都道府県、市区町村単位もしくは省エネ基準の地域区分単位で記載してください。

HEAT20設計ガイドブック2021のp026 表1を参照して記入してください。

HEAT20設計ガイドブック2021のp030 表2を参照して記入してください。

注：「ルート1」と「ルート2」では、負荷削減率の意味が異なりますのでご注意ください。

◆担当者の連絡先等

担当者氏名	OO OO
所属/部署名/役職名	OO部 OO課 OO
郵便番号 / 住所	000-0000 東京都千代田区神田O-O
電話	00-000-0000
E-mail	oooo@xxx.yy.zz

◆HEAT20ホームページ掲載  公開  非公開 ※当社団HPへの掲載についての確認です。  
公開希望の場合はリンク先のURLを右に記載してください。 [ 例 <http://www.heat20.jp/> ]

付属資料

評価計算に用いた仕様、性能値を一つだけ記載してください。よって、複数の記載、性能値の以上・以下の表記はできません。

一つの申請は、すべて屋根断熱か、すべて天井断熱のいずれかになりますので、どちらかを選択してください。屋根断熱と天井断熱が混在する場合は、それぞれ申請が必要です。

「熱貫流率計算書」、「基礎の線熱貫流率計算書」、及びその根拠となる部位断面図(平面断面と縦断面)を添付してください。木熱橋の面積比率の妥当性、断面構成材料を確認するためです。

(1) 評価計算で用いた部位の仕様

1) 屋根、天井、外壁、床等の熱貫流率と断熱工法・仕様

外張断熱の場合は、断熱層内の木熱橋の有無を記載してください。充填断熱の場合は、たる木間、母屋間、根太間、大引き間、副床など断熱材施工法を記載してください。熱橋面積比率を特定するためです。

部位	U:熱貫流率 [W/(m <sup>2</sup> ·K)] Ψ:線熱貫流率 [W/(m·K)]	断熱工法 <sup>*6</sup>	断熱材の仕様			根拠資料 <sup>*7</sup>
			断熱材の種類 <sup>*6</sup>	断熱材厚さ [mm]	断熱材の熱伝導率 [W/(m·K)]	
屋根又は天井 <sup>*1</sup> ◎ 屋根 ○ 天井	X.XX	外張断熱 (木熱橋なし)	XPS 3種 b A	100	0.028	なし
外壁	X.XX	充填断熱+付加断熱 (木熱橋あり)	GW H632-36 +付加断熱GW H616-38	100 +45	0.036 +0.038	なし
床 外気に接する部分 <sup>*2</sup> その他の部分	X.XX	充填断熱(根太間+大引間)	E P S 1号 2層	60 +120	0.034	なし
土間床外周部の線熱貫流率 <sup>*3,4</sup> ◎ 新計算法 ○ 旧計算法	0.99	吹付工法(基礎内側 +土間折返し)	吹付付硬質ウレタンフォームA種 H(基礎部・折返し(L=450)部)	75	0.026	◎試験センター 試験成績書
基礎壁の熱貫流率 <sup>*4</sup> (新計算法の場合のみ)	X.XX	内断熱(吹付工法)	吹付付硬質ウレタンフォームA種 H 1層	75	0.026	なし

基礎立ち上がり部の断熱部、及び土間部への折返し断熱の有無を記載してください。折返し有りの場合は、折返し長さも記載してください。

断熱材の種類と厚さも、基礎(立ち上がり部)と折返し部がわかるように記載してください。

断熱材などの性能値(熱伝導率など)に自己適合宣言書、公的試験成績書の値を用いる場合は、その旨記載するとともに、それら根拠資料を添付してください。

\*1 屋根断熱と天井断熱のいずれかにチェック○を記入してください。  
\*2 モデルプランにはこの部位はありませんが、実設計で認定される「外気に接する床」の仕様を記載してください。  
\*3 基礎の線熱貫流率の算出方法は、新計算法、旧計算法のいずれかをチェック○を入れてください。  
\*4 基礎の線熱貫流率は建築研究所の技術情報「第三章第三節 熱貫流率及び線熱貫流率」の「6.2土間床等の外周部」(新計算方法)又は、同資料の「付録D 土間床等の外周部の熱損失及び基礎壁の熱損失を一体として評価する方法」(旧計算方法)の何れかにより計算してください。なお、新計算法にて求めたUA外皮平均熱貫流率は、旧計算法と比べてある程度大きくなることもありますので、この点を確認したうえでご検討ください。新計算法による場合、基礎の線熱貫流率は(0.99)を用いてください。  
\*5 外気側基礎について記載してください。  
\*6 例: 充填断熱、外張断熱、充填断熱+付加断熱など。また、付加断熱層、外張断熱層の内部に断熱の有無を記載してください。  
注: 断面構成、断熱層内の熱橋の有無などがわかる「断面構成図(平面断面・縦断面)」を必ず提出してください。  
\*7 断熱材の種類は、JISの場合にはJISに適合する名称(正確な名称と記号)を記載してください。  
\*8 性能値の出典が「建築研究所 技術情報」以外である場合に出典名を記載してください。その根拠資料を必ず提出してください。例えば、自己適合宣言書、公的試験機関の試験成績書などです。  
\*9 性能値の出典を自己適合宣言書等とした場合は、開閉方式(引き違い、外開きなど)を記載してください。

2) 開口部の熱貫流率・日射熱取得率と仕様

種類	方位	U:熱貫流率 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]	ηd: 開口部日射熱取得率	サッシの仕様 <sup>*9</sup> (開閉方式: 自己適合宣言書の場合)	ガラスの仕様	根拠資料 <sup>*8</sup>
窓	南	X.XX	X.XX	樹脂製 (引き違い)	3層ダブルLowEガラス (アルゴンガス入り7mm)	自己適合宣言書 附属書添付
	東	X.XX	X.XX	樹脂製 (引き違い)	3層ダブルLowEガラス (アルゴンガス入り7mm)	自己適合宣言書 附属書添付
	北	X.XX	X.XX	樹脂と金属の複合製 (引き違い)	2層LowEガラス (ガスなし空気層12mm)	自己適合宣言書 附属書添付
	西	X.XX	X.XX	樹脂と金属の複合製 (引き違い)	2層LowEガラス (ガスなし空気層12mm)	自己適合宣言書 附属書添付
ドア	X.XX			枠: 金属製断熱構造、戸: 金属製断熱フラッシュ (ガラスなし)	自己適合宣言書 附属書添付	

窓、ドアの性能値(熱貫流率、日射熱取得率)に自己適合宣言書、公的試験成績書の値を用いる場合は、その旨記載するとともに、それら根拠資料を添付してください。根拠資料には、評価計算に用いた品番、性能値の箇所を赤線で囲んで明示してください。

※窓のU値が仕様・サイズにより異なる場合は、方位別にU値が最も大きいものを記載してください。ドアもU値が最も大きいものを記載してください。  
※窓のηd値がガラス仕様等により異なる場合は、方位別にηd値が最も小さいものを記載してください。  
\*8 性能値の出典が「建築研究所 技術情報」以外である場合に出典名を記載してください。その根拠資料を必ず提出してください。例えば、自己適合宣言書、公的試験機関の試験成績書などです。  
\*9 性能値の出典を自己適合宣言書等とした場合は、開閉方式(引き違い、外開きなど)を記載してください。

3) 外皮平均熱貫流率 (ルート1の場合のみ記載)

U <sub>e</sub> :外皮平均熱貫流率 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]	X.XX
---	------

(2) 部位の追加仕様と熱性能 (評価計算で用いた仕様以外に申請する仕様がある場合は、以下に記入する。)

※注 追加仕様は、(1)1)及び2)に記載した部位と同じ部位、窓は同じ方位が対象です。また、U値が評価計算で使用した仕様のU値以下であること。窓のη値はその仕様のη値以上であること。

追加仕様についても、評価計算における場合と同じく上記の「熱貫流率等の計算書」、「自己適合宣言書等の根拠資料」を提出してください。

評価計算に用いた部位と同じ部位であることを注意してください。別の部位を追加したい場合は、別申請となります。

記号は、(1)の評価計算で用いた仕様と区別するためのものです。根拠資料には、この記号で判別しやすくしてください。なお、記号は区別できれば付け方は問いません。

1) 部位 (開口部以外) の熱貫流率と断熱工法・仕様

部位	記号	U:熱貫流率 [W/(m <sup>2</sup> ·K)] Ψ:線熱貫流率 [W/(m·K)]	断熱工法 <sup>*6</sup>	断熱材の仕様			根拠資料 <sup>*7</sup>
				断熱材の種類 <sup>*6</sup>	断熱材厚さ [mm]	断熱材の熱伝導率 [W/(m·K)]	
屋根	R2	X.XX	外張断熱 (木熱橋なし)	◎断熱材	XXX	X.XXX	◎試験センター 試験成績書
外壁	W2	X.XX	充填断熱+付加断熱 (木熱橋あり)	◎断熱材(充填、付加断熱共)	XXX	X.XXX	◎試験センター 試験成績書
床	F2	X.XX	充填断熱(剛床、根太間)	◎断熱材	XXX	X.XXX	◎試験センター 試験成績書

2) 開口部の熱貫流率・日射熱取得率と仕様

種類	記号	方位	U:熱貫流率 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]	ηd: 開口部日射熱取得率	サッシの仕様 <sup>*9</sup> (開閉方式: 自己適合宣言書の場合)	ガラスの仕様	根拠資料 <sup>*8</sup>
窓	G2	北	X.XX	X.XX	樹脂製 (FIX窓)	2層樹脂Low-Eガラス日射遮蔽型	自己適合宣言書 附属書添付
ドア							

※対策は出来るだけ具体的に示してください。適宜、説明図等を添付してください。

(3) 気密性の確保と防露仕様について（基本的な考え方や注意している点等について記載してください）

屋根又は天井 <sup>1</sup>	<p>：断熱材は・・・であるため、防露措置として・・・及び・・・による対策をしている。</p> <p>防露性能の評価（内部結露）※1  <input type="radio"/> 仕様基準に適合 <input checked="" type="radio"/> 同等評価により適合                      注：計算評価の場合は計算書を提出してください。</p>
外壁 <sup>1</sup>	<p>：断熱材は・・・であるため、防露措置として・・・及び・・・による対策をしている。</p> <p>防露性能の評価（内部結露）※1  <input type="radio"/> 仕様基準に適合 <input checked="" type="radio"/> 同等評価により適合                      注：計算評価の場合は計算書を提出してください。</p>
床 <sup>1</sup>	<p>：断熱材は・・・であるため、防露措置として・・・及び・・・による対策をしている。</p>
基礎 <sup>1</sup>	<p>：断熱材は・・・した施工を行うことで・・・対策をはかっている。</p>
取り合い部 <sup>1</sup>	<p>：気流止めを・・・に施工する。気密化のために・・・の措置を施すと共に、・・・を行っている。</p>

防露仕様が、性能表示・評価方法基準における防露規定の仕様基準と異なる場合は、防露特認などの公的な根拠資料の添付、又は結露計算書を提出してください。  
通気層、防湿フィルムがない、などの場合が想定されます。

各部位、取り合い部ごとに気密化、防露対策及び関連対策について記載してください。

※1 性能表示の評価方法基準における防露基準で、仕様基準（防湿層、通気層の設置など）にて評価しているか、計算により防露性能を評価しているかチェックしてください。計算による場合は計算書を提出してください。

(4) 遮熱計画について（軒や庇の出、設計時の考え方や住まい方での注意点等について記載してください）

<p>・窓にはすべて何らかの日射遮蔽措置（ロールブラインドもしくは縦ルーバー）を・・・。</p>
--

評価計算には、反映していないブラインドやルーバー、その他省エネ基準で認められていない手法でも結構です。

(5) 通風計画について  
（開口部の設計、通風経路等、設計時の考え方や住まい方での注意点等について記載してください）

<p>・通風性を確保するために、各室には二つ以上の開口部を・・・。</p>
---------------------------------------

評価計算では評価対象外であるブラインドやルーバー、その他省エネ基準で認められていない手法でも結構です。

(6) 暖冷房計画について  
（設備の設置位置等設計時の考え方や住まい方での注意点等について記載してください）

<p>・暖冷房の熱源はエアコンとし、全館空調システムを・・・。</p>
-------------------------------------

評価計算とは同じ暖冷房運転条件である必要はありません。

(7) 換気計画について（換気の種別等設計時の考え方や住まい方での注意点等について記載してください）

<p>・全館換気は第1種換気方式とし、換気回数は0.5回/h・・・。</p>
--